

大阪錦繪新聞

第30号



彫淺二良
板元石和

第百十五の午後、正七時大妙珍が
新あり。鉄鉋しき事あり。且那を
送る。灰り道。狐を乗せし。噂する
其車夫へ天満まで。十日天神橋通
元興力町の人力車屋まで。柴嶋
へ行く。明車。堤の客待ふ。
日笠り。午に年頃。三十歳は
迎き美婦人。元西役町へ何程。問へて
多う。と車夫へ。定めて。戀男の所ある。一朱ある。
よう。ん。いへ。女。首振り。五銭で行きて。たまたま。や。と。賃と
極多。走る道。元興力町へ来るに。東より来る老男。車は。は。と。行。あり。
人力車。曳へ。詫び。せん。と。あ。う。と。見。ま。と。人。の。居。る。行。く。と。ま。其。車。が。
一倍。も。く。成。り。也。不。思。義。な。う。い。き。せ。き。と。元西役町の角舎ある。
餅屋。よ。ら。せ。バ。コ。い。う。客。の。姿。見。ぬ。也。扱。へ。狐。と。心。有。き。箱。荷。の。事。を
此。後。は。仕。合。有。る。と。ま。つ。屋。町。北。へ。と。去。ぬ。る。車。群。集。の。人。を
お。い。き。て。ク。ワ。イ。と。の。と。外。

よ。い。空。を。と。や。あ。せ。と。つ。り。の。車。夫。と
狐。と。あ。う。の。と。や。あ。せ。と。ま。つ。し。

世木みよ子

おきん車